

「スキンテアに関するアウトカムの実態調査」にご協力いただいた皆様へ

2次解析のためのデータ利用のご依頼

スキンテア起因外力予測アプリケーションの開発

2021年2月19日

「スキンテアに関するアウトカムの実態調査」の際にはご協力いただきまして誠にありがとうございました。調査の結果、スキンテアは再発率が高く、発生の原因となる力のかかり具合を予測することが再発を防ぐうえの鍵となることが明らかになりました。また、前回の調査で得られたデータよりスキンテアの種類と発生の原因をあわせて検討するとスキンテアが発生した原因となる力が推定できることが示唆されました。

そのため、今回はこの発生原因となる力の予測が可能となる機器の開発を行う目的で研究を実施いたします。

**【研究課題】** スキンテア起因外力予測アプリケーションの開発

**【研究の目的】**

先行研究のデータを用いた2次解析により、スキンテアが発生した原因となる力を予測する機器の開発を行うことを目的とします。

**【対象期間および研究期間】**

研究期間：倫理審査承認後～2022年3月31日

調査期間：倫理審査承認後～2021年12月31日

**【対象となる方】**

「スキンテアに関するアウトカムの実態調査」にご協力いただきました患者様の保管データを用いた2次解析

**【研究の意義】**

スキンテアが発生した原因となる力を予測する機器を開発することで、これまで原因が不明であった外力を特定できます。外力が推定可能となることで、スキンテアの再発予防に向けたケアの確立につながり、スキンテアの発生を予防することが可能です。

**【研究の方法】**

この研究は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則り、札幌市立大学倫理委員会の承認を受けて実施するものです。

これまでの先行研究「スキンテアに関するアウトカムの実態調査」で記録されている情報や画像のデータを2次利用して行う研究です。これらのデータは既に匿名化されています。新たに追加する情報はありません。データは既に匿名化されているため、個人を特定できないため同意を撤回することはできません。

### 【個人情報の保護】

匿名化されたデータ等は、前回の調査責任者の宮田照美より主研究施設（研究責任者 貝谷敏子）に手渡しされた後にコピー保存・解析をします。このデータは既に個人情報はなく、主研究施設において貝谷敏子のみが使用できるパスワードロックをかけた外部メモリで厳重に保管します。保管は研究室の鍵のかかる書庫で行います。また、画像解析のために共同研究者野口博史（大阪市立大学大学院工学研究科）にパスワードロックをかけた外部メモリのデータのコピーをお渡しします。郵送の際には発送履歴の残る簡易書留を利用します。このデータも 共同研究施設において野口博史のみが使用できるパスワードロックをかけた外部メモリで厳重に保管します。保管は研究室の鍵のかかる書庫で行います。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会や論文等で発表されます。厳重な管理のもと、主研究施設に保管されたデータは研究終了後5年間、共同研究施設に保管されたデータは研究終了後5年間保存されます。上記期間が経過した後は、研究責任者および共同研究者が適切に破棄いたします。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら下記連絡先へお尋ねください。

### 【その他】

あなたへの謝金はございません。

本研究に関連し、研究責任者と共同研究者に開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

### 【調査内容に関する連絡先】

札幌市立大学看護学部 貝谷敏子

e-mail: [t.kaitani@scu.ac.jp](mailto:t.kaitani@scu.ac.jp)

tel : 011-726-2538(直通)

### 【研究倫理に関する連絡先】

札幌市立大学 倫理委員会

〒005-0864 札幌市南区芸術の森1 丁目

札幌市立大学事務局 地域連携課気付

TEL : 011-526-2346 Fax:011-592-2369